

地域のろう者の思い

安心できるまちになってほしい

小野 晶子さん(浜町)

日々の生活の中で困ることや、電話がかかってきたことは分かるのですが、出ても聞こえないので話ができない(通じない)ことです。また、自転車に乗っている時に後ろから車が来ても、車の音が聞こえないので、急に追いつ越される時はものすごく怖いのです。普段の買い物では、地域の人



小野 晶子 さん

しかし、高梁市に手話通訳者が設置される前は、母と一緒に市役所に行って話をしていたのですが、母が亡くなってからは話ができるか不安でした。

設置されたお陰で、必要なときにすぐ通訳対応してくれるので、とても安心していきます。

手話言語条例が制定されて、消防士や救急救命士の方が手話を習っておられました。皆さんが手話をできるようにになると、いざというときに意思疎通ができるのでとても安心です。筆談よりは時間もかからないですし、意図も伝わりやすいので、市民の皆さんにも手話を覚えていただきたいと願っています。

手話で話ができるとうれしい

菊樂 稔さん(備中町東油野)

5歳のころから、ろう学校に通っていました。手話は、寄宿舎で先輩が使っている様子を見ていたので、生活する中で自然に覚えられました。授業では、とにかく声を出すことを習いました。「か」の発音が難しかったですね。また、中等部なのに小学4年生の勉強をしていました。声を出す訓練が優先されていたので、通常の学習は遅れていたのです。

今は福祉作業所に通っています

聴覚障害者福祉協会

住みよい高梁になるために



岡山西厚美さん
岡山県聴覚障害者福祉協会 会長

「いつでもどこでも手話でコミュニケーションできる街づくり」。このスローガンは私たちの運動の原点です。

このたび、高梁市が岡山県で初めて手話言語条例を制定し、手話を使うろう者の文化や、手話のより確実な普及の橋頭堡となられることを期待しています。

私たちが理想とする社会の実現にはまだ時間がかかると思いますが、手話が普及することで、家庭・地域・学校や会社において意思疎通がスムーズに行え、医療機関においても言いたいことが十分に伝わるようになるなど、聞こえないことが不利にならないコミュニケーションが形成されるために、これからの高梁市の取り組みに期待しています。

手話通訳者

誰もが安心して暮らせる町に



井上 宏美 さん
岡山県登録手話通訳者

平成3年から高梁市手話ボランティアの会の手話講師をしています。初代会長の杉井米雄さんをはじめ、山川千鶴子さん、沼本征子さん、そして現会長の奥恵子さんを中心とした活動の中で、高梁市への専任手話通訳者の設置をお願いし、平成25年4月に設置されました。また、このたび制定された手話言語条例も含めて私たちにとても喜ばしいことでした。

私の母は高梁の生まれで、祖父の母は高梁が大好きでした。これからの高梁市手話ボランティアの会、成羽手話サークル、備中町手話サークルはたるの会の3つのサークルの皆さんと一緒に、手話の輪を広げていき、誰もが安心して暮らせる高梁市になるように取り組んでいきたいと思っています。

消防士

地域を守るために



高梁市消防署 小坂 勇介 さん

手話言語条例の制定により、消防署でも今年度から救急救命士に対して手話講座が行われました。手話にはなじみがなかったのですが、講座を終えて手話が身近なものに感じるようになりました。

講座の始めは簡単な自己紹介からでしたが、回を重ねるごとに難易度が上がり、最後の講座では市内のろう者の方々と手話で会話をしました。私の手話はまだ未熟ですが、ろう者の方々は手話を使ってコミュニケーションがとれていることがうれしかったです。

今までに救急現場で手話を使った機会はないですが、そのような場面があれば手話を用いて少しでもろう者の方に安心感を与えたいと思います。



菊樂 稔 さん

したいです。しかし、手話が通じないことが多いので、身振りや指差しをしています。

困ることですが、誰かと会話をする場面で、耳が聞こえないのに声だけで話しかけられることですね。口の動きは読めますが、全ての口の動きが分かるわけではないので、その意味を理解するのに時間がかかります。ですので、身振りや筆談をしてもらえるだけでも安心できますね。

手話言語条例ができたので、これからは市民の方にも手話を覚えてもらいたいと思います。市内で手話の講座が開催されているので、気軽に参加していただきたいです。

私に何かあったとき、皆さんと手話で話ができることも安心です。私もいろいろな場面で、皆さんに手話を教えることができたと思います。



高橋 和男 さん

手話講座受講者

言語としての手話を広めたい

手話奉仕員養成講座(基礎課程)を受講しています。以前から手話に興味があり、習ってみたいと思っていました。

実際に習い始めて感じることは、声に出して伝える時は簡単な言葉でも、声に出さず両手だけをを使って伝えることの難しさ、また表情の大切さを実感しています。手話を習うことで、聞こえない人が困っていたらできるだけ寄り添って手助けをする、また周りの人にも手話が大切な言語だということを広げていきたいです。

条例制定をきっかけに、手話ができる環境を整えたり、図書館でも手話の本を増やすなどしてほしいです。そして多くの市民が手話を身近に感じ、聞こえる人も聞こえない人も分け隔てなく住みやすいまちになればいいと思います。



太田 陽子 さん
(落合町近似)